

◆ 福岡市社協事業の戦略的全体像（第6期地域福祉活動計画の策定に向けて）

図1. 「住民参加と自治を基盤とした地域福祉の推進」から「地域共生社会の実現」へ
 — 事業の再編・さらなる重点化（第5期計画重点項目の枠組みによる整理） —

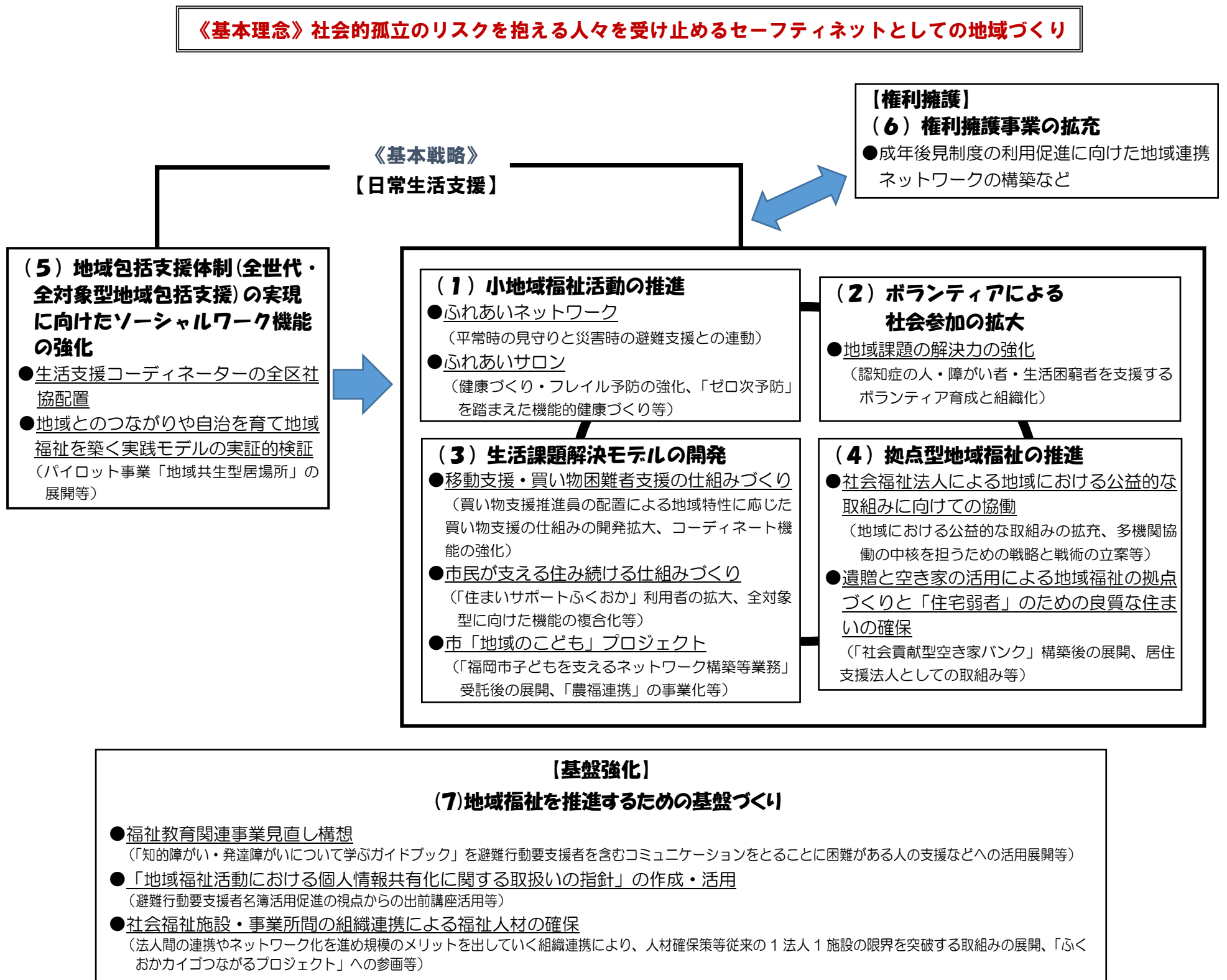
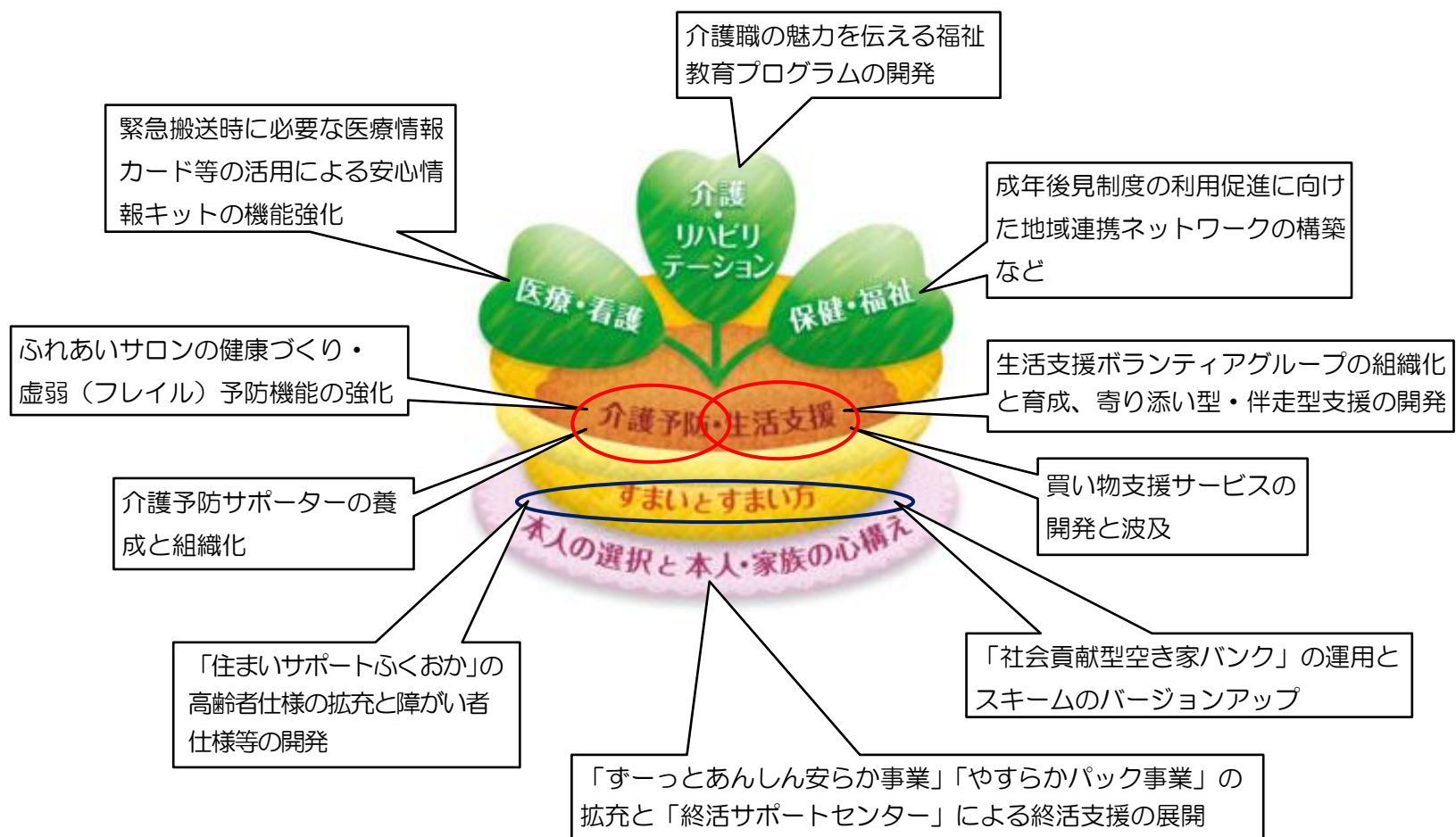
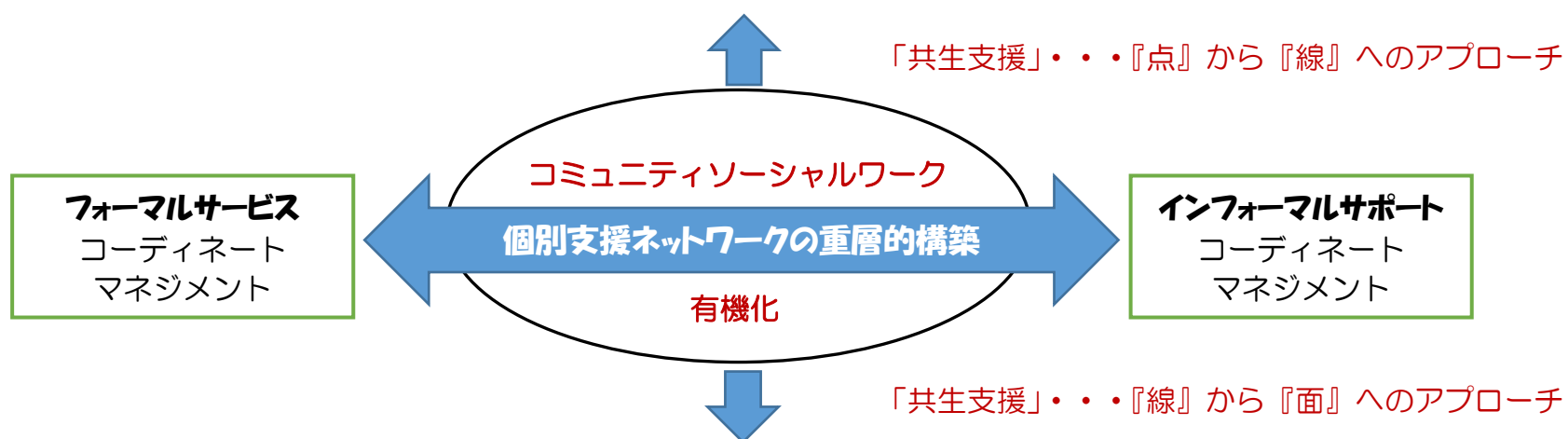
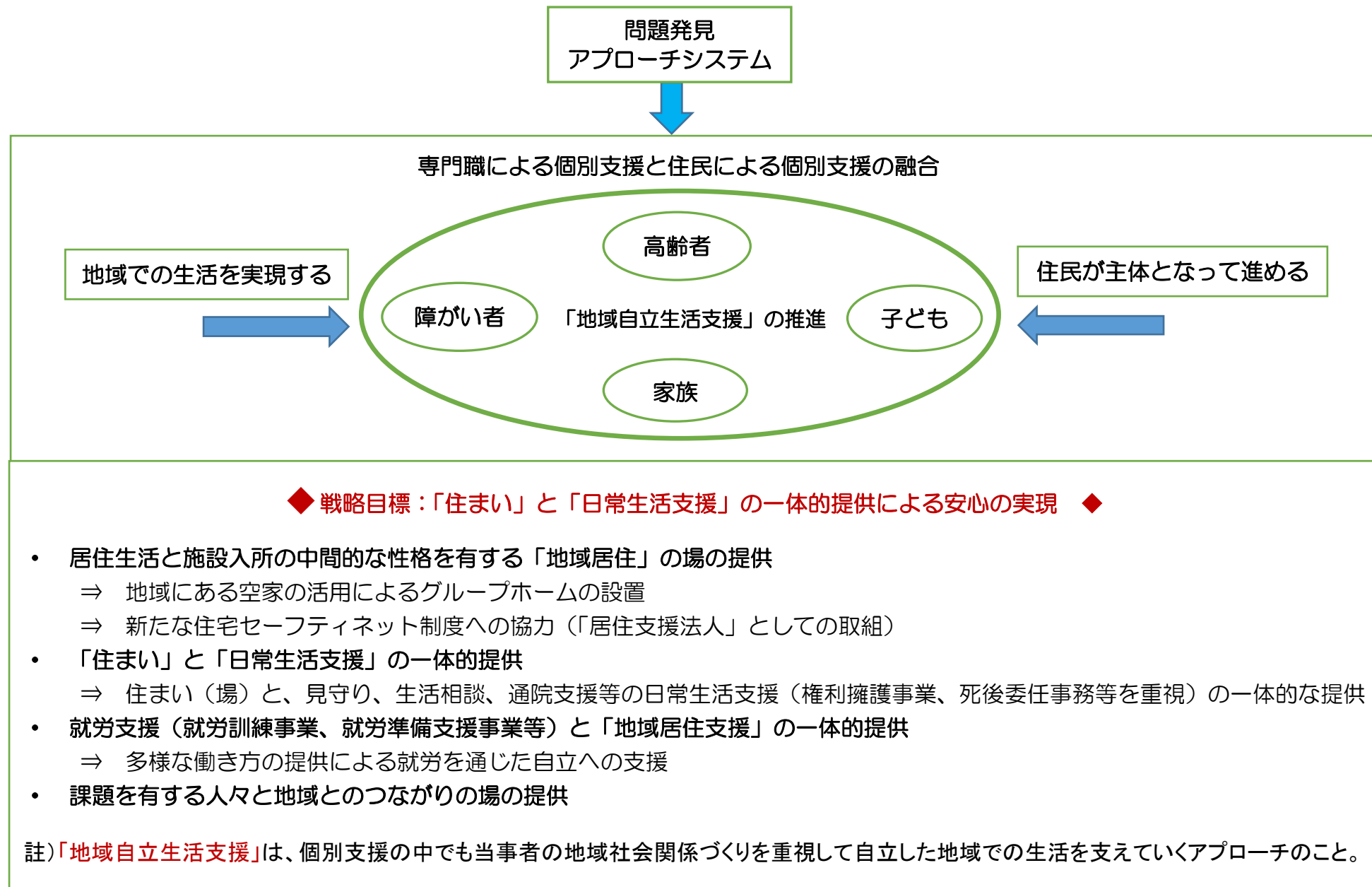


図2. 地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりと社協実践との関係（機能・役割による整理）
 — 住み慣れた地域で安心安全にその人らしく生活し続けることができる地域の実現 —



註) 吹き出し内の取組は、例示。

図3. 社会的孤立のリスクを抱える人々を受け止めるセーフティネットとしての地域づくり
コミュニティソーシャルワーク 実践展開フロー



- **新しいサービス・仕組みの開発**
 - ・ 互助を基本とした生活支援等サービス（居場所、見守り、生活支援を核とする住民の助け合い活動）の創出など
 - ・ 「住民参加による生活支援サービス」の評価については、従来の「ニーズ（必要）」重視のアプローチだけでなく、“あるもの”に着目し、住民の強みや対応能力を伸ばすことを大切にし、住民参加の度合いが高く、コミュニティが主導的な役割を担うことを目指す「アセット（資産）」重視の考え方を尊重。
- **制度改善等ソーシャルアクション**
 - ・ 地域づくりに資する複数の事業を一体的に実施していくための補助事業等を有効に活用した連携体制の提案など

ケアリングコミュニティづくり

註)ケアリングコミュニティは、「共存的自立」（一人で生きる価値観ではなく、「相互に支え合う地域」をつくることによる自立）を理念とし、「福祉サービスを必要とする人」を日常生活圏域の中で支えていく機能を有している地域社会の実現を目指す。

☞ 「共生支援」ということ—「福岡市社協第5期地域福祉活動計画中間年見直し委員会」説明資料からの抜粋—

○ すべての実践においてつながることの可能性を追求する

- ・ 本会作成の「起動プラン」の行動宣言は、“社協は、制度の狭間にある課題を抱える住民の「セーフティネットの最後の砦」として、その課題を把握し、解決に向けて取り組む”としているが、今後のセーフティネットでは、年齢や職業、所得等を超えて、社会的孤立のリスクを抱える人が、他の人や社会集団とつながり、社会の中で生きていけるよう支援すること（「共生支援」）がさらに重要となる。
- ・ 「社会的孤立」は、家族と雇用システムの変化によって、人と人との「つながり」という社会の基盤的部分が弱体化していることから、「つながりの場としての地域づくり」が、地域福祉実践の基盤をなす。
- ・ 「共生支援」は、人々が自分一人の自立だけでなく、「自分以外の人と共に生きていくこと」そのものを支援対象とするという趣旨であり、従来の個々のリスクの横に新たに追加される一つのリスクではない、すべてのリスクに何らかの形で関わる基盤的リスクである「社会的孤立」というリスクへのアプローチであり、コミュニティソーシャルワークの根幹をなす。